

殺菌用消毒剤の抗菌性試験（EN 13697）のご案内

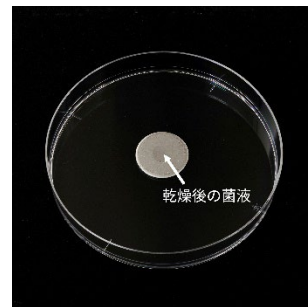
当センター東京事業所 バイオラボにて「EN 13697」の受託試験を開始しました。この試験方法は、非多孔性表面を持つテーブルやキッチンなどを模した試験担体に対して、汚れ物質を含む菌液を付着させ、そこへ消毒剤を添加した後の抗菌性の効果を評価します。

試験方法の概要

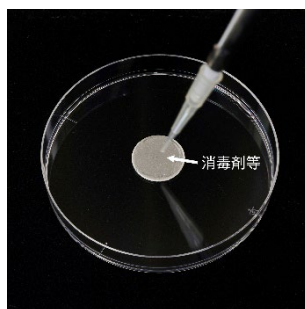
1. 直径 2cm のステンレス鋼製ディスク（試験担体）に、妨害物質（タンパク質を含む汚れ成分）を含む菌液を 50 μ L 滴下し、乾燥固着させます。
2. 使用時の濃度に調製された消毒剤等の液剤 100 μ L を、固着させた細菌の上を覆うように静かに滴下します。
3. 使用時を想定した時間×温度で細菌と液剤を接触させます。EN 13697 では接触時間と温度は次のようになっています。
 - 接触時間：1～60 分
 - 温度：4℃～40℃（室温相当は 18～25℃）
4. 同時に水または所定の硬水を用いた対照試験を実施します。
5. 不活性化剤を用いて殺菌剤等の作用を直ちに中和させます。試験担体上の細菌を洗い出した後、平板培養法にて生菌数を測定します。
6. 対照と消毒剤の所定時間接触後の生菌数の常用対数値の差から対数減少値を求めます。



菌液接種



乾燥後の菌液



消毒剤等滴下



中和・洗い出し

対数減少値 = $\log$ （対照の所定時間接触後の生菌数） - $\log$ （消毒剤等の所定時間接触後の生菌数）

【試験可能な菌種】

- *Staphylococcus aureus*（黄色ぶどう球菌）
- *Escherichia coli*（大腸菌）
- *Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）
- *Enterococcus hirae*（エンテロコッカス・ヒラエ）

【サンプル必要量】

50mL 以上

基準値

EN 13697 による基準値：対数減少値 4 以上（消毒剤等の生菌数が対照の生菌数より 10,000 分の 1 以下に減少すること）

お問い合わせ

東京事業所 バイオラボ TEL：048-258-3277